

- | | |
|---|--|
| ① … 浦和レッズ、劇的な決勝ゴールで優勝 ～天皇杯JFA第101回全日本サッカー選手権大会
レジスタFC、6年振り2度目の栄冠に輝く ～JFA第45回全日本U-12サッカー選手権大会 | ⑧ … 大会記録●県内大会 3種・4種・少女 |
| ② … 第15回埼玉県第4種サッカーリーグ・選手権大会 浦和レッドダイヤモンズジュニアが初優勝！ | ⑨ … 大会記録●県内大会 女子・シニア |
| ③ … Jリーグ経験者から見た「埼玉の高校サッカー」1 浦和学院高校サッカー部 村松 浩監督 | ⑩ … 大会記録●県内大会 シニア・フットサル 大会記録●県外大会 1種社会人・大学 |
| ④ … Jリーグ経験者から見た「埼玉の高校サッカー」2 埼玉平成高校サッカー部 浦田尚希監督 | ⑪ … 大会記録●県外大会 2種クラブ・高体連・3種・4種 |
| ⑤ … WEリーグ応援企画 ちふれASエルフェン埼玉マリ(U-18) 大須賀まさ氏 | ⑫ … 大会記録●県外大会 女子・シニア・フットサル |
| ⑥ … 大会記録●県内大会 1種・2種 | ⑬ … 「第4回埼玉フットボールカンファレンス2022」開催決定 インフォメーション |
| | ⑭ … インフォメーション 編集後記 |

●発行/(公財)埼玉県サッカー協会 〒330-0074 さいたま市浦和区北浦和1-21-18 雁ヶ音ビル204号室 Tel048-834-2002・Fax048-834-2004 <http://www.saitamafa.or.jp/>

浦和レッズ、劇的な決勝ゴールで優勝 ～天皇杯JFA 第101回全日本サッカー選手権大会

J2降格が決まった大分トリニータを相手に勝利目前での失点で同点となり、延長かと思われたアディショナルタイムで劇的な逆転勝ち——記憶に残る試合となりました。本当に見事な勝利、そして優勝でした。おめでとうございます。来期に向けて、浦和レッズへの期待がより高まったとも言えるでしょう。J1はもちろん、アジアでも頂点を目指してほしいものです。楽しみにしています。

10月27日 準々決勝 ガンバ大阪 0-2 浦和レッズ

得点者……10分 キヤスパー・ユンカー、42分 関根貴大

12月12日 準決勝 浦和レッズ 2-0 セレッソ大阪

得点者……29分 宇賀神友弥、89分 小泉佳穂

12月19日 決勝 浦和レッズ 2-1 大分トリニータ

得点者……6分 江坂 任、90分 ベレイラ(大分)、90+3分 横野智章

※浦和レッズは3年振り8度目の優勝(最多優勝回数に並ぶ)



優勝 浦和レッズ

©URAWA REDS

レジスタFC、6年振り2度目の栄冠に輝く ～JFA第45回全日本U-12サッカー選手権大会

ベスト8に関東のチームが5つ入るという中で決勝に残ったのは、レジスタFCと鹿島アントラーズジュニアの2チームでした。奇しくも6年前、レジスタFCが初優勝したときと同じカードとなりました。試合の主導権を先に握ったのはレジスタFC。11分に五十嵐陵選手が先制ゴールを挙げると、後半にも五十嵐選手が2得点し、ハットトリックを達成。チームとしても完封という見事な勝利で、優勝を勝ち取りました。おめでとうございます。

※結果は記録ページでご確認ください。



優勝 レジスタFC

「素材」の何を、どう見るのか？ ～Jクラブを経験して～

今回はプロを知るお二人にお聞きました。監督就任経緯の話からここまでを振り返りながら、3種から2種への「ブリッジ」、そして現状の2種、その中でも高体連をどのようにご覧になっているのかを伺ってきました。（聞き手／広報委員 荒川裕治）

Jリーグ経験者から見た「埼玉の高校サッカー」1

映像を使ってチームの情報提供を～埼玉のレベルアップのために

浦和学院高校サッカー部 村松 浩監督

「もう一度、勝負の世界へ」

—いきなりですが、もう慣れましたか？ 高体連には国体やトレセンなどを通じて懇意になっている方多いと思います。

村松 確かに以前から浦和レッズのスタッフとして、高体連の先生方とは仲良くさせていただいてきました。でも、大会運営やそれぞれの学校に関わる環境を知らないまま、ポツとやってきたわけですから、三年目を迎えてもまだまだ“新参者”ですよ。正直、高体連というのは自分から見たら遠い存在であり、浦和学院の環境もわからないまま就任しましたからね。



村松 浩監督

今回、お話をいただいたときに「もう一回勝負の世界に身を置いて、やってみたい」と思ったのです。たまたま来た話ではありましたが、私自身、65歳に近づく中、現状のレッズにおいては育成スタッフが育ってくれて、人数も揃ったことも大きな理由でした。

今の目標は県大会で優勝し、全国大会に出場してどこまでいけるのか。そして、サッカーをツールとして「浦和学院」のステータスを高めることです。そこに寄与できるかどうか。

勝負ではあるのですが、チャレンジです。もう一度若い選手たちが日々の練習を通じてどのように変化して、結果を伴っていくのかを見たいのです。もっと言えば、自分の中で「正しい方向で指導できているか」と確信を持ちたいのです。また、浦和学院は「学校」という括りがありますが、その中でトップトップの選手たちが少しでも成果と結果を伴ってくれば、ステータスは高まると考えています。

—浦和レッズ時代はトップチームからジュニア、そして女子までとにかく幅広く関わっていらっしゃいましたね。

村松 その中でも、育成年代の指導・マネジメントを担当する期間が長かったですね。クラブから見てですが、3種年代と4種年代は、県内各チームとは競合していました。それが2種になるとユースはプロであるトップチームの下部組織にあるため選手数も絞られてくる中で目標に向けて活動しています。高体連のチームは多くの部員が高い志をもって活動しています。ですから、3種と4種においては同列ですが、ユースと高体連ではそれぞれ選手の成長を見極める基準に個人差があると感じています。

振り返るとこの年代の指導については、「浦和スポーツクラブ」で監督をして以来です。Jリーグ開幕前年、浦和レッズの下部組織として位置づけられて発足した際、私が初代監督となりました。そこからすぐにトップチームに行ってしまうのですが、1年ほどSR（スペシャルレフェリー）だった東城穰さん（サッカー1級審判インストラクター）を指導しましたね。

環境の変化。サッカーを通じて「人」を育てる

—指導した選手がトップレベルに到達してくれたことは喜ばしいことですね。いよいよ来年度に向けて、環境が変わりますね。

村松 2021年末、グラウンドが人工芝になりました。学校としてサ

ッカーに力を入れていこうという機運が高まり、練習環境を整えていただけることになりました。学校として本気になっていただけたことに感謝しています。ただ、ここからは結果を意識しなければなりません。期待されるハードルは上がりましたので、がんばらないといけませんね。

やはり環境が変わる、整うということは重要なことです。「Jリーグのアカデミーは難しいけれど」という選手たちの中から「浦学に行こう」と考えてくれる選手は確実に増えるはずですよ。全体的な質は上がることでしょ。

—先ほど「ユースと高体連ではそれぞれ選手の成長を見極める基準は個人差がある」とおっしゃいました。この「個人差がある」という中で、高体連の指導者として意識していることがあれば教えてください。

村松 現在の部員は3年生を含めて93名。1、2年生だけでも73名。これまで経験したことのなかった人数です。そういえば、一年目は120名くらいいましたね。彼らは能力などでカテゴライズされてトレーニングしています。彼らを見てみると、一人ひとり、目的意識に差があります。混在していると言っていいのかもしれませんが。選手権に出たいという選手もいれば、大学でもプレーしたいという選手もいますし、この高校の三年間の部活で終わるという選手もいます。どこに目標を立てればいいのか。どこを目安にすればいいのか。トップのカテゴリーにいないでも、高い意識を持った選手はいます。彼らをどう育てていくのか。ただ、高校の部活はプロを育てる組織ではありません。サッカーを通じて、サッカーを一つのツールとして「人」を育てていく場です。彼らが社会で一人前になってくれることを願っています。

サッカーをツールとして考えるからこそ、トップチームに上げられるかどうかは競争次第だということを理解できる環境を整えることが大事だと考えています。そしてサッカーをやり続けたことで得られる達成感、満足感を持って、卒業していってくれる環境を整えるのが私のミッションですね。

今の2年生のセレクトから関わってきました。正直、サッカー部としての方向性も知らない中で監督になりましたが、試合を見て、練習を見て「足りない」「意外とこんなことができる」などと確認しながら進めてきました。選手たちはどこまで成長できるのか。可能性のある選手たちですので、楽しみにしています。

—選手たちの現状はいかがでしょうか。

村松 浦学の選手たちは、テクニカルな選手が多いです。ボールロストはしません。ただ逆に強度やプレースピードは上がらないという特徴があります。この部分では西武台や正智深谷の方が上です。その差がサッカーに出ています。戦い方はそれぞれですが、今後は浦学でも強度やプレースピードの強化を目指すことになるでしょう。逆に、この部分をこなす力があるかどうかを試されていくのではないのでしょうか。ポゼッションをしても、ゴールに行かなければチームとして「攻撃するんだ」という迫力に欠けてしまいます。その力を持っているチームが県でベスト4、ベスト8に入ってきていますからね。

力のあるチームは、ボールを運びながら、強度も高く、そのプレースピードを緩めることはありません。しっかりやっているんです。そして、周りの状況を見る力もあるんです。ただ、プレーを選択するにあたり、まずはゴールを目指す。これをノーリスク、ノージャッジと捉える向きもありますが、優先順位として上だからこそ、ゴールを目指すことを選択しているんですね。ですから、プレーに余裕があるんです。

そう、余裕なんです。実際にリーグや練習試合で対戦する中で彼らの判断が見えるんです。ボールを動かせる場面ではどのチームも動かしていますし、その能力もあるんです。

—判断、余裕ですか。直近の試合でいえば？

村松 例えば、高校選手権の県予選で浦和東に敗れました（3回戦。0対3）。浦学の選手たちは、浦和東の徹底的に相手の背後を突くというプレッシャーの中で冷静にプレーできた場面もありましたが、失点の場面は個々の判断ミスが起因でした。

あの試合、攻撃面では練習で取り組んできたことは、後半になってある程度できていました。相手の薄いところを突きながらゴールを目指すということは。ただ最後、フィニッシュは個の力なんですけどね。試合の中でやっていることは間違っていないのですが、個々の判断ミスからの失点は悔やまれましたね。余裕があれば、なんです。

2種で通用するかどうか

—さて、県内の3種年代の状況をどのように見ていらっしゃいますか。また、選手たちに求めている能力などありましたら教えてください。

村松 3種は関東リーグに所属しているチームは高いレベルにあると思います。また県1部も決して悪くありません。またどのチームを見ても、数名は「いいな」と思える素材はいます。

私が見るポイントは、ストロングな部分です。例えば、現状で身長の高い選手、しっかりボールを蹴ることができる選手、スピードのある選手、さらにスピードに乗っている中で姿勢がぶれない選手……。あとは与えられたポジションに適したプレーをしているかどうかですね。逆に、人に強くて攻撃参加が苦手な選手、またボールをしっかり蹴ることができない選手であれば、高校に入ってからでも改善できますし、成長させられます。

というのは、中学3年生ですべての要素を網羅したパーフェクトな選手を集めるわけではありません。通用するかどうかです。浦学に来て、レッズ時代に意識していた水準よりは下がっていますが、それでもその基準、「ものさし」を伸ばしていきたいと思っています。

そのためには高体連のチームが、もちろん浦学が、中学生たちの進路を考える上でJリーグのアカデミーとの比較対象、選択肢になればいいですね。まだまだ埼玉県には「土壌」があるんです。今までも見てきましたし、今もそうです。選手はいないわけではありません。先ほど言った通り、各チームに2〜3人は目を引く選手がいるんです。

ただレッズで言うと、ジュニアユースからユースに昇格できなかった選手たちの進路先を見ると、県内だと西武台や昌平以外の選手は県外に出てしまうのです。そういう選手たちを県内に留めて、県全体をレベルアップしていければと思うのです。昌平が全国大会で勝ち上がってくれたことで「サッカー王国・埼玉」の復権への期待が高まっています。また、もっと県内で切磋琢磨することが求められていると感じています。

—県全体のレベルアップは皆さんが望んでいることでもあります。また、それが大きな課題でもあります。

村松 そこで提案があります。そのためには、各高校のチームで



のようなサッカーをしているのかをもっと知ってもらうことが大切ではないでしょうか。実際、選手たちがどのような環境で育っていくのかを情報提供していくのは、保護者の皆さんから求められているところなんです。

可能であれば卒業した後、大学でもプレーできる選手になってほしいと願っています。ですから、この三年間でサッカーの原理原則を身につけさせて送り出したいものです。そのためにリーグ戦があるのですから。

要は質の高いサッカーを志向しながら成長していくことができるのかどうか。その一助としては、メディアの力が大切だと思うのです。メディアでの取り上げ方で変わると考えています。やはり映像でリーグ戦を取り上げてほしいのです。イレギュラーでもいいのです。トーナメントではなく、高校年代で日々取り組んでいるサッカーのレベルを知ってほしいのです。

DAZNで世界のサッカーを観ることができる時代になりました。しかし、肝心な足元が見えていません。私たちは、どこか頭でっかちになっているのではないのでしょうか。

今、目の前にある自分たちのサッカーで何をしなければならないのか。例えば、選手一人ひとりが自分たちの課題を把握できるチームなのかどうか。わかりにくければ視覚的に訴えることも大事です。具体的に言えば、どのチームも自分たちのスカウティング用に映像は撮っているはずなんです。その映像をクローズにせず、SFAが主体となってオープンにするべきです。

自分たちの映像を公開するということは、「みつともないことはできない」という意識改革にもなります。実際、そういうところが問われているのです。

—確かに、足元が見えていませんし、チーム数が多いだけに情報も選手同士の口コミだけになっています。そこに映像を通じて介入していくことで、関わる皆さんの意識が向上できれば、いいわけですね。

村松 当たり前ですがプレーするのは選手で、どういうサッカーがしたいのかはピッチに立っている彼らが決めるのです。また「やっぱりいいよな」と思ってもらえるのも、選手たちのプレーなんです。それらをどのチームで表現したいのか。一人ひとりが「ここだ」と決めたチームで心技体を鍛え、成長していったら、もっともっと埼玉のサッカーはよくなると思うのです。

—さっそく、関係各所に働きかけてみたいと思います。今日もありがとうございました。

Jリーグ経験者から見た「埼玉の高校サッカー」2 身のこなし方—動きの質、しなやかさがポイント

埼玉平成高校サッカー部 浦田尚希監督

選手を育てることを重視

—今年は卒業生が二人、プロ入りを果たしました。おめでとうございます。

浦田 ありがとうございます。今年、佐々木旭と長峰祐斗がそれぞれ川崎フロンターレ、ツエーゲン金沢に加入することになりました。育てていただいた流通経済大学、拓殖大学のスタッフの皆さんには感謝しかありません。彼らは確かに上（プロ）を目指していました

が、まさか実現できるとは。これも大学へ行って活躍できたからです。私としては「試合に出るくらいはなんとか」と思って送り出しましたから。とにかくうれしいですね。また佐々木に関しては、私が所属していたフロンターレです。ありがたいですね。

—これからが楽しみです。さてまずは、浦田さん自身のこと、こちらに赴任された経緯も含めて教えていただけますか。

浦田 もともと出身は春日部です。小淵少年団でサッカーを始め、春日部東中へ進み、浅賀先生に指導を受けました。そこから武南高



浦田 尚希監督

校に進みましたが、当時の東部地区はサッカー後進地域でしたので、東部から武南に来た人は少なかったですね。まあ、上野良治さん（元日本代表・元横浜F・マリノス）がいた時代でしたから、なかなか入ることのできるチームではありませんでした。そして国士舘大学に入り、川崎フロンターレに入りました。

引退後、指導者となり、石川、東京と行きました。しかし、埼玉に戻って指導をしたいという気持ちは強かったですね。埼玉

平成高校に声をかけていただいて、お世話になっています。ただ、こちらに来るまで県の西部には来たことがありませんでした。行っても川越の陸上競技場くらいまでだったと思います。

—同じ埼玉でも違いますよね。とはいえ、ここ埼玉平成の強化を託された中、当時、そして今も、目指していることはなんですか。

浦田 目指したのは、武南のようなつなぐサッカーです。2013年に赴任しましたが、当時のレベルは西部支部の2部リーグでしたから、高くはありませんでした。とにかく来てくれた選手たちと共にスタートしました。それでも、コーチとして三島さん（伸也氏。坂戸中学校～西武台高校【1995年高校総体・準優勝】～川崎フロンターレ）にも入ってもらい、「まずは楽しくサッカーをしよう」と選手たちには話をしていました。その年の10月には人工芝のグラウンドが完成し、いい環境を整えてもらいました。

現状、三島さんと二人でチームマネジメントを行っていて、選手への指導は外部コーチ主導でお願いしています。三島さんとは考え方も一致していますので、本当に助けていただいています。

—その「考え方」とはどのようなものなのでしょう。

浦田 勝つことよりも選手を育てることを重視しているというものです。どうしても勝つことを優先してしまうと、選手たちがここで学ばなければならないことを疎かにしてしまうからです。ベース、基礎があつての成長です。もちろん勝つことも大事ですが、試合に負けたとしても変わらずにこういうのは一致しています。

—なかなか、プレずに貫くというのは難しいと思います。

浦田 先ほども言いましたが、自分だけではプレしてしまいます（笑）。今年は平島裕樹さん（浦和南高校【2001年高校選手権出場】）にトップチームのコーチをしてもらいましたが、S1リーグでは厳しい戦いが続きました。今、西部地区だけを見ても西武台、立教新座、武蔵越生……その競争は熾烈と言ってもいいでしょう。コーチングスタッフ同士で支えあいながら、ここまで来たということです。

ただ最近思うことは、ある程度勝たないと、「勝つこと」を教えていけないといけないのかなと。やはり勝たなければ、強くなければ、地域的にいくついても選んでももらえません。実際、勝たないと疲れてしまいます（笑）。もちろん守って守ってというサッカーをすれば勝てるかもしれませんが、でも、それでは私たちにとって得るものはありません。やはり負けても意思を通す「強さ」が必要です。

—その中で勝つことに意義があるわけですね。

浦田 県内にいろいろなチームがあつていいと思います。だから面白いし、そういう中だからこそ私たちも成長できるのですから。例えば、ロングボールを蹴ってこられても、そのサッカーを超えるパスワーク、技術を見せて勝つことができたらいと思うのです。私たちとすれば、そうやって勝つこそ、初めて認められると思っています。県内では昌平がすごいサッカーで勝っています。本当に勉強になりますね。

完成されていない素材が伸びる

—今、地域的な話が出ました。またいい素材もいると。この西部地

区の現状と浦田監督の選手を見るポイントを教えていただけますか。

浦田 3種年代を見ると「素材」はたくさんいます。中でも坂戸ディプロマッツは全国レベルと言っていいでしょう。可能性のある選手たちがいて、彼らが進学する西部地区だけでも勝ち抜くのは大変です。

私の選手選考の基準ですが、第一はサッカーが好きかどうかです。これは当たり前ですが、大切に思っていることです。

もう一つは「動き」です。3種の時点で完成されている選手は、そこからなかなか伸びないものです。見ていて動きがナチュラルで、これから伸びそうと思える選手ですね。

小さくてもいいんです。例えば、佐々木も入学当初は165センチなかったと思いますが、そこから身長が伸びました。長峰も大きくはありませんでした。3種までのところであまりストレスがかかっていない方がいいですね。また、ガッチリしていないほうがいいと考えています。というのは、最終的にプロになる選手は身体の使い方が上手いんです。

—経験上、ということですね。

浦田 私自身、大学に行ってから体を鍛えたのですが、残念ながらJリーグでは通用しませんでした。外国人のDFと競るじゃないですか。当たったときにメチャクチャ強いわけですよ。簡単には勝てない。これをどうすればいいのかと悩んでいました。

—しかし浦田監督の現役時代のプレーはよく覚えていますが、とにかく突っ込んでいくというか、点で合わせてゴールを決めるという印象が強いですね。フィジカル的には強かったのでは？

浦田 そういうゴールが多かったですね。というか、そういうプレーしかできなかったんですね。でもフロンターレに入って、練習で190センチもあるペッサードというセンターバックと競ったりしてわかりましたが、デカいけれど、身体の使い方はしなやかでした。それでいて、こちらが弾き飛ばされてしまうのです。

そうそう、しなやかさと言えば、FWのヴァルディネイ（98年JFL得点王）。彼のヘディングシュートやボレーシュートを見ていてもそうでした。あとエメルソン（元レズ他）のシュートなんて大砲みたいなもので、私としては「これじゃ勝てないな」と思ったものです。

—ブラジル人のヴァルディネイも190センチ近くあったと思います。本当にすごかったですね。またエメルソンなど、まさにトップレベルの選手たちが浦田監督にとっては、ライバルでしたね。

浦田 そうなんです。そんな中で、どうしてこうかと考えていたところ、今は埼玉平成でもお手伝いしていただいているフィジカルトレーナーの平山昌弘さんを友人から紹介してもらって、考え方が変わりました。身のこなし方の違いで変わるんだと。この知識をもっと早く知っていれば……。

—身のこなし方、ですか？

浦田 簡単にいうと「力を抜く」んです。平山さん曰く「力を抜いたときに本物の力が出る」と。ただ、その感覚を伝えることは難しいことです。指導者としては選手のフィジカルを鍛えるならば、筋トレをさせたり走り込みをさせた方がわかりやすいでしょう。でも、本物の力というのは、しなやかさなんです。動きの質にあるんです。だからプレー中の動きの中で負荷がかかっていない選手がいいんです。それができている選手が伸びるんです。

振り返ると、大学時代、学生選抜の一員としてコスタリカ遠征に参加した際、地元のユースチームと試合をしたのですが、あのときに「何か違う」と思って頭に残っていたことでした。平山さんと話をしたときに「これだ」と思いましたね。コスタリカの子どもたちは自然



と身についていたかもしれませんが、私はわかっていませんでした。だから、大学時代にただ鍛えていたのです。

今、選手たちは平山さんの指導を受けているところです。

—力を抜くとは、スムーズだということでしょうか。

浦田 やはり、余計なストレスがかかっていないということです。

そうそう、佐々木が大学二年のときに出場した浦和レッズとの練習試合を観ましたが「いい動きしているな」「スムーズだな」と思っていたら、そこで評価されたようです。

ここから「世界」を意識してほしい

—なかなか難しい話ですね。

浦田 難しいんです(笑)。だから、そこでサッカーが好きかどうかです。夢を追いかけるにはメンタルの部分が大きい、重要です。今までいい素材だと思う選手はいましたが、サッカーを辞めてしまうんですね。基本的なことをやり続ける力がないと、選手たちが描いている夢にはたどり着けません。もちろん天狗にならないことも必要ですし、運もあります。でも、まずはサッカーが好きで「やり続けたい」と思い続けることが大事だと思うのです。だから選手たち

には、私がここまでやってきたノウハウを伝えていけるといいなと思っています。

—話が最初につながりましたね。大事なのは選手の育成ということ。実際、今回プロになる二人は、埼玉平成から直接入るのではなく、大学経由でした。ここで基本を身につけて、大学で飛躍してくれたわけですから、埼玉平成では「結果」は出なくても「成果」は出ているということです。一人でも多くの選手が高いレベルで戦えることを願っているわけですね。

浦田 そうなんです。あとは、選手たちにはもっと「世界」を意識してくれるといいと思っています。結局、高いレベルでサッカーを続けるということは、国内だけではなく「世界」を相手にすることです。そのためには、世界に負けない身体づくりも大事です。本当にサッカーが好きでなければ続けられませんが、この年代から「世界」を意識するというのがやはり大事ですね。

—「世界」を意識する、目標にするということが、選手自身の成長を促すことになると思います。また選手たちにとっては、高校サッカーがゴールではないということですね。ありがとうございました。

WE リーグ応援企画

トップチームへのエール

ちふれASエルフェン埼玉マリ(U-18) 大須賀まき氏

私がエルフェンに入るきっかけは、2009年にトップチームがなでしこリーグ2部で優勝して、1部に昇格が決まった頃に自分から早乙女さん(秀雄氏・当時理事長)に電話をしたことからでした。入ったのは2010年です。伊賀から東京に戻り、スクールのお手伝いをしていたのですが、やはりチームに関わりたいたいと思い、自分からお電話させていただきました。

クラブとして下部組織の充実をさせなければならないという考えがあり、私もトップチームよりも育成年代の指導がしたいと思っていました。まずは、環境整備に取り組みしました。

サッカーを真剣に取り組める環境を

振り返るとトップチームは1部に昇格したものの、今はマリが使用させていただいているタムラ製作所さんのグラウンドや柏原の河川敷のグラウンドで練習していました。どちらも土のグラウンドです。選手たちは毎月部費を払いながら、関西でのアウェイでも試合当日に移動していたような時代でした。そんな状況にあるスポーツ新聞が取り上げてくれました。「なでしこリーグ1部なのに、こんな環境で」という内容だったと思います。内容的にひどいなと思ったのですが(笑)、その記事をご覧になったちふれ化粧品(現:ちふれホールディングス株式会社)の片岡方社長が興味を持ってくださり、お会いしたところ、私もいたその場で「女性をサポートすることは会社の使命とも言えることなので、ぜひエルフェンで頑張っている女性たちを支援させてください」とおっしゃっていただきました。2011年のことでした。そこから環境がガラッと変わりましたね。今では専用の人工芝グラウンドまで整備していただきました。

環境は本当に大事です。

私は小学生のときに学校にサッカーチームがあり、そこでサッカーを始めました。ただ、中学校では男子サッカー部に女子は入れなかったの、バスケ部に入部しました。高校に入るときに巣鴨の三菱養和で女の子でもサッカーができると聞き、三菱重工女子サッカ



大須賀 まき氏

一部(廃部)に入れてもらいました。本当に、女の子がサッカーをしたくても、できる環境がなかった時代です。初心者同然の私をチームのみんなは温かく迎え入れてくれました。集まっていた三菱の社員の方から地域の中学生たちまで、みんな真剣に取り組んでいました。またこれがクラブの良さなんだろうなと思ったのが、社会人の人たちは仕事があり、また家庭もある方々もいてサッカーのために時間をわざわざ捻出して練習に来ているんですよ。そういう人たちがだらだらしている私たちを本気で怒ってくれたんです。ですから、こちらも真剣に練習するようになりました。あの時代に学んだことが今でも残っていて、立場も年齢も関係なく、みんなが本気でサッカーを楽しんでいるクラブチームの雰囲気は今も私は大好きです。だから私は選手の判断基準は、サッカーが上手いか下手かではなく、サッカーを好きか嫌いかなんだと思います。

将来的に指導者になりたいと思い、その後日産FCレディース(1993年廃部)、読売ベレーザ(現、日テレ・東京ヴェルディベレーザ)に選手で入れていただきました。特にベレーザは、チームがそのまま日本女子代表になるような時代でした。そのとき感じたのは、上手い選手ほど真剣に取り組む、そして誰でも受け入れるということ。彼女たちはプレーも人格も一流。そして、本当にサッカーが好きなんだということ。当然、一人ひとりがベレーザの一員として「負けられない」というプレッシャーもあったでしょう。また、シドニー五輪への出場を逃したこともあり、「女子サッカーは自分たちが支えていかなければならない」という自負もあったと思います。素晴らしい環境の中ではありませんでしたが、だからこそ甘えずに、真剣に励んでいた彼女たちと同じ時間を過ごしたのは、とてもいい経験になりました。

全国にある女子クラブの目標に

私は、Jリーグの下部組織のアカデミーで指導した経験がありますが、そこで感じたのは、Jクラブは「男子第一」になることが多いです。確かに、Jクラブの一員になればレディースのチームとしても知名度は上がるでしょう。でも女子が「一番」という訳にはなかなかいきません。

このエルフェンは純粋な街クラブから始まって、ここまで来ました。まだまだ困難はあるでしょうが、ここで踏みとどまって前を向いていかなければ、女子サッカーに夢がないと思うのです。希望がないと思うのです。現在、WEリーグを見てもINACとノジマ、マイナビ、ちふれ以外はJクラブです。確かにJクラブがすべて女子チームを持ってくれたら、女子サッカーの裾野は広がるでしょう。でも、全国の

女子クラブにとって「JクラブでなくてもWEリーグを目指せる」という目標になればいいと思います。

WEリーグができたことは、育成年代の選手たちにはいい刺激になっています。自分たちの目標となるトップチームが身近にあることは励みになります。2021シーズンは、トップチームには2種登録の選手が4人いました。エルフェンのイズムというか、マリから所属している選手たちのクラブ愛はとても強いです。また、全員が全員、トップチームに昇格できるわけではありません。でも、現在は昇格できなかった選手が何名か大学経由で戻ってきてくれました。将来的には、トップチームのスタメンが5人くらいマリ出身の選手たちになると嬉しいですね。

WEリーグは期待と共に問題も山積しています。でも関わっている以上、選手・スタッフは「絶対に成功させるんだ」という熱意を持っています。というのは、私たちが30年前に味わった、恵まれない

環境でサッカーをしている子どもたちがまだまだいるからです。女子サッカーは、皆さんのおかげでここまで来ることができました。皆さんのご協力があることです。でも、まだまだなのです。

私は最後まであきらめない「ひたむきさ」が大好きです。ただプロであれば、それだけでなくサッカーそのものが「面白い」と思ってもらえるように、技術の精度の追及をしていかなくてはなりません。そのためには特に指導者の「質」が大事です。

最後は人となり結果に出ると思います。だから私自身、普段の生活からしっかりしかなければならないと考えています。そこで各クラブに関わっている皆さん、さらに地域の皆さんにお願いします。傍観者にならず「自分たちで女子サッカーをよくしていこう」と意識を持ってください。皆さん、一人ひとりの力が必要です。

育成の現場はいつでもオープンです。練習、ぜひ見に来てください。

大会記録●県内大会

1種

2021年埼玉県社会人リーグ1部

●全日程終了

順位	チーム	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
1	Tokyo International University	44	14	2	0	55	11	44
2	ACアルマレッザ入間	32	10	2	4	37	28	9
3	東京国際大学 ドリームス	27	8	3	5	43	28	15
4	越谷FC	26	7	5	4	32	19	13
5	CALIENTE KUKAGAYA	24	7	6	6	28	26	2
6	大成シティFC坂戸	19	5	4	7	28	34	-6
7	与野蹴魂会	13	2	7	7	22	32	-10
8	江南ブロッコリーズAC	10	2	4	10	21	55	-34
9	大里SC	5	1	2	13	13	46	-33

2021年度第54回埼玉県大学サッカーリーグ戦

●全日程終了

順位	チーム	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
1	城西大学	50	16	2	0	71	5	66
2	共栄大学	45	14	3	1	56	10	46
3	尚美学園大学	38	12	2	3	39	15	24
4	平成国際大学	35	11	5	2	50	18	32
5	埼玉工業大学	24	7	3	6	26	26	0
6	獨協大学	22	6	4	8	24	33	-9
7	埼玉大学	17	5	2	12	22	30	-8
8	駿河台大学	12	2	6	10	13	36	-23
9	東洋大学川越	10	3	1	12	20	64	-44
10	文教大学	8	2	2	13	17	57	-40
11	芝浦工業大学	1	0	1	8	13	57	-44



優勝 西武台



決勝 西武台 vs 浦和南

高円宮杯U-18サッカーリーグ2021埼玉県 S1リーグ

●全日程終了

順位	チーム	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
1	西武台	42	12	6	0	53	13	40
2	正智深谷	41	12	5	1	39	14	25
3	昌平Ⅱ	36	11	3	4	50	20	30
4	成徳深谷	36	10	6	2	39	10	29
5	市立浦和	28	9	1	8	30	35	-5
6	武南	23	7	2	9	28	37	-9
7	浦和南	21	5	6	7	29	28	1
8	浦和学院	13	3	4	11	21	39	-18
9	埼玉平成	9	3	0	15	11	59	-48
10	聖望学園	4	1	1	16	18	63	-45

2種

第100回全国高校サッカー選手権大会埼玉県大会

10月16日～11月14日 埼玉スタジアム2〇〇2他

正智深谷	1	0	昌平	0
越谷西	2	0	武蔵越生	1
埼玉平成	2	0	埼玉栄	0
立教新座	4	0	西武台	2
浦和南	0	1	浦和西	0
成徳深谷	0	3	細田学園	2
浦和学院	0	0	春日部東	0
浦和東	3	1	武南	9

※西武台が11年ぶり4度目の優勝



埼玉県 S1 リーグ第1位 西武台



西武台 vs 正智深谷

3 種

高円宮杯JFA 第33回全日本U-15サッカー選手権大会
埼玉県予選

8月28日～9月20日 県内各地

第1代表決定戦	坂戸ディプロマッツ	9-0	東松山市立松山中学校
第2代表決定戦	三郷ジュニア	1-0	川口市立西中学校
第3代表決定戦	1FC川越水上公園	4-0	さいたま市立南浦和中学校
第4代表決定戦	FCアビリスタ	0-0 (3PK1)	FC KASUKABE
第5代表決定戦	CAアレグレ	2-1	FC深谷
第6代表決定戦	プレジール入間	2-0	レジェンド熊谷
第7代表決定戦	成立ゼブラ	1-0	FC KAWAGUCHI
第8代表決定戦	東松山ペレーニア	1-2	クマガヤSC

高円宮杯JFA U-15サッカーリーグ2021埼玉
第14回埼玉県ユース(U-15)サッカーリーグ 1部

●全日程終了

順位	チーム	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
1	クマガヤSC	24	8	0	1	34	3	31
2	1FC川越水上公園	24	8	0	1	29	11	18
3	フォルチFC	15	4	3	2	11	12	-1
4	坂戸ディプロマッツ	13	4	1	4	12	17	-5
5	CAアレグレ	10	3	1	5	5	8	-3
6	三郷ジュニア	10	3	1	5	6	15	-9
7	成立ゼブラ	9	2	3	4	7	10	-3
8	ACアスミ	9	2	3	4	12	19	-7
9	東松山ペレーニア	9	3	3	3	5	12	-7
10	プレジール入間	3	0	3	6	5	19	-14

2021年第10回埼玉県ユース(U-13)サッカーリーグ
●全日程終了

順位	チーム	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
1	クラブ与野	22	7	1	0	25	2	23
2	グランデFC	19	6	1	1	14	6	8
3	JOGADOR	13	3	4	1	16	13	3
4	ACアスミ	12	3	3	2	11	10	1
5	プレジール入間	9	2	3	3	9	10	-1
6	CAアレグレ	8	2	2	4	10	8	2
7	FC深谷	8	2	2	4	9	9	0
8	1FC川越水上公園	8	2	2	4	15	22	-7
9	川口西中学校	0	0	0	8	3	32	-29

4 種

JFA 第45回全日本U-12サッカー選手権大会埼玉県大会

10月16日～11月14日 埼玉スタジアム第2グラウンド他

プレジール	2	1	0	0	2	GRANDE FC A
1FC A	1	2	0	1	1	アビリスタ
ダイナモ A	2	0	0	1	1	上尾朝日A
エクセレントフィートB	1	0	1	0	0	東川口FC
NEO	0	1	0	0	0	川鶴FC
レジスタハ潮	1	1	3	5	4	レジスタFC
大宮	0	3	1	2	0	片山ゴンザレス
浦和レッズジュニア	1	3	1	0	1	レアル狭山

※優勝したレジスタFCが本大会に出場



優勝 レジスタ FC



決勝 レジスタ FC vs 浦和レッズジュニア

少女

第33回埼玉県少女サッカー大会

11月7日、14日 新座市総合運動公園/滑川総合運動場

狭山女子FC	4	0	0	0	0	寄居女子SC
大宮日進SSレディース	1	0	2	0	1	FCスベラル toda
バルセイロ毛呂山レディース	1	0	0	0	0	FCなめくま
東大宮エンジェルス	1	0	1	0	3	熊谷リリーズ☆
浦和ラッキーズFC	1	0	0	0	0	少女サッカークラブ
宮原サッカーガールズ	5	1	1	0	1	吉川ILキッカーズ
フィリアFCジュニア	0	4	0	0	0	浦和FCヴィーナス
桶川クイーンズ少女SC	0	1	0	6	0	陣屋アイリス
川越女子ジュニア	3	0	2	0	2	戸塚FCガールズU12

女子

2021年度第29回埼玉県女子サッカーリーグ1部

●Aブロック 全日程終了

順位	チーム	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
1	東京国際	15	5	0	0	46	0	46
2	白岡SCL+	10	3	1	1	15	5	10
3	エルフェンU15	9	3	0	2	11	8	3
4	GRAMADO	7	2	1	2	19	8	11
5	上福岡女子	3	1	0	4	10	17	-7
6	フィリアFC	0	0	0	5	1	64	-63

●Bブロック 全日程終了

順位	チーム	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
1	1FC川越U18	15	5	0	0	19	3	16
2	白岡SCL	12	4	0	1	9	1	8
3	DBFC楓島	9	3	0	2	10	6	4
4	浦和レッズ	6	2	0	3	7	10	-3
5	FC Angeles	3	1	0	4	4	10	-6
6	越谷LF	0	0	0	5	3	22	-19

令和3年度 埼玉県高等学校女子サッカー選手権大会

8月27日～9月20日 県内各地

南陵	7	4	0	9	浦和西
庄和	1	2	0	0	市立浦和
川越南	0	0	0	0	山村学園
浦和実業	7	0	2	6	本庄第一
川口市立	7	1	0	10	昌平
大宮開成	0	1	2	0	和光国際
宮代	0	5	8	0	秋草学園
松山女子	10	5	11	0	花咲徳栄

※優勝は花咲徳栄(2年ぶり4回目)。準優勝の南陵と共に関東大会に出場。



優勝 花咲徳栄



準優勝 南陵



決勝 花咲徳栄 vs 南陵

2021年第17回埼玉県女子U-15リーグサッカー大会

●全日程終了

順位	チーム	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
1	白岡SCL	17	5	2	0	46	2	44
2	ちふれASエルフェン埼玉マリU-15	15	4	3	0	25	1	24
3	GRAMADO FC TOKINAN	14	4	2	1	13	4	9
4	1FC川越水上公園メニエU-15	11	3	2	2	21	8	13
5	大宮アルディージャVENTUS U-15	11	3	2	2	16	9	7
6	クラブ与野レディース	4	1	1	5	6	28	-22
7	FC.CHOQUETTE	4	1	1	5	5	48	-43
8	クマガヤSCライラック	1	0	1	6	5	37	-32

2021第26回埼玉県女子ユース(U-15)サッカー大会

関東大会予選

9月11日～10月9日 県内各地

白岡SCL	1	0	5	GRAMADO
Bruder	1	0	7	フェミニノ川越
ライラック	8	0	0	越谷LF
ちふれ	0	1	2	クラブ与野レディース
大宮アルディージャ	25	0	1	シュエット
SEフィリア	0	0	6	戸塚FCガールズ
大宮FC	0	1	1	熊谷リリーズカサブランカ
1FC川越	7	2	7	ちふれ

※上位3チームが関東大会に出場

シニア

2021年度埼玉県O-40サッカーリーグ1部

●全日程終了

順位	チーム	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
1	SOL TODA	27	8	3	0	20	3	17
2	FCサンシンシニア	27	8	3	0	18	1	17
3	セレソン所沢シニア	24	8	0	3	29	10	19
4	FC西武台	21	6	3	2	14	3	11
5	越谷シニア	20	6	2	3	22	12	10
6	与野シニア	19	6	1	4	24	15	9
7	クマガヤSC	12	3	3	5	13	14	-1
8	VAMOS鳩山	12	4	0	7	9	17	-8
9	川口シニア	12	4	0	7	8	22	-14
10	FC浦和シニア	10	3	1	7	10	19	-19
11	川越シニア	3	1	0	10	10	23	-13
12	八潮シニア	3	1	0	10	4	42	-38

2021年度第34回県民総合スポーツ大会

9月19日～12月19日 熊谷スポーツ文化公園陸上競技場他

クマガヤSCシニア	4	1	0	3	SOL TODA
小川スパースター・ユナイテッド	0	9	0	0	東松山ペレニアFC
東松山オールドパワーズ	3	1	0	0	八潮シニアFC
FC浦和シニア	5	2	1	3	FCサンシンシニア
越谷シニアSC	6	2	1	3	KFC FUKAYA
VAMOS鳩山SC	1	4	5	2	与野シニアFC
本庄アイベックス	0	4	2	1	NAMEGAWA SC
FC西武台シニア	7	4	2	4	セレソン所沢シニア

※優勝はFC西武台シニア。

2021年度埼玉県O-50サッカーリーグ1部

●全日程終了

順位	チーム	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
1	セレソソ所沢シニア	32	10	2	0	27	3	24
2	FC浦和シニア	26	8	2	2	32	11	21
3	川越シニア	26	8	2	2	23	9	14
4	越谷シニア	25	7	4	1	26	11	15
5	SFC Niiza	22	6	4	2	18	10	8
6	FC上尾シニア	22	7	1	4	23	16	7
7	パルスFC	21	6	3	3	15	13	2
8	川口シニア	13	4	1	7	15	22	-7
9	市高クラブ	11	3	2	7	12	22	-10
10	新明シニア	7	2	1	9	10	22	-12
11	NTTシニア	5	1	2	9	14	31	-17
12	東松山オールドパワーズ	5	1	2	9	11	30	-19
13	東松山ペレーニア	5	1	2	9	7	33	-26

2021年度埼玉県O-60サッカーリーグ

●全日程終了

順位	チーム	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
1	ベアーズ	30	9	3	1	22	3	19
2	パルスFC	28	8	4	1	26	8	18
3	サウスフレンズ	20	6	2	5	12	14	-2
4	OKT FC	18	5	3	5	12	10	2
5	比企FC	14	4	2	7	7	15	-8
6	FSC	18	5	3	5	14	12	2
7	春越	18	5	3	5	12	16	-4
8	ポラリス	14	4	2	7	10	20	-10
9	OKG	11	1	8	4	5	12	-7
10	浦和GP	7	1	4	8	5	17	-12

※後期は前期の上位5チーム、下位5チームでリーグ戦を行った

2021年度埼玉県O-65サッカーリーグ

●全日程終了

順位	チーム	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
1	エルマノス65	27	8	3	1	21	8	13
2	DREAM FC	19	5	4	3	15	10	5
3	トライアングル・ルス	22	6	4	2	13	11	2
4	シリウス	14	4	2	6	17	16	1
5	EASTワラビーズ	9	2	3	7	10	16	-6
6	チームあらかわ	8	2	2	8	9	17	-8

※前期は6チームのリーグ戦。後期は前期の1位と2位、3位と4位、5位と6位の2回戦

2021年度埼玉県O-70サッカーリーグ

●全日程終了

順位	チーム	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
1	ゼルコバ	22	6	4	2	16	8	8
2	Gファイター	20	5	5	2	11	3	8
3	PTK	12	3	3	6	8	18	-10
4	FFC	10	3	2	7	9	15	-6

※4回総当たり

2021年度埼玉県O-75サッカーリーグ

●全日程終了

順位	チーム	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
1	ペレウス	21	7	0	5	17	22	-5
2	アルゴス	15	5	0	7	22	17	5

フットサル

第27回 全日本フットサル選手権 埼玉県大会

10月23日～11月23日 くまがやドーム他

東京国際大学	6	0	3	6	AOH FC
P-spider	2	2	3	7	九龍
ディセット	3	4	2	3	エステリオ
烏天狗FC	6	6	7	2	デールさいたま
F&F	7	5	5	5	ラウニダッド
エフスポ川越	3	4	2	4	CALIENTE
スプリズ	3	2	3	5	サルー
1FC/tzk	4	5	9	7	城西大学

※優勝した烏天狗FCは関東大会に出場

第3回埼玉県U18フットサルリーグ

●全日程終了

順位	チーム	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
1	FFCエストレーラ	21	7	0	0	97	10	87
2	正智深谷高等学校	18	6	0	1	79	19	60
3	埼玉平成高等学校	15	5	0	2	53	30	23
4	IF Levante	12	4	0	3	48	38	10
5	デールさいたまU-18	7	2	1	4	25	29	-4
6	山村国際高等学校	5	1	2	4	20	76	-56
7	畠明高等学校	4	1	1	5	31	68	-37
8	浦和麗明高等学校	0	0	0	7	13	96	-83

大会記録●県外大会

1種・社会人

2021年度(第5回)関東サッカーリーグ2部

●全日程終了

順位	チーム	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
6	アヴェントゥーラ川口	26	8	2	8	25	24	1
7	東京国際大学FC	25	7	4	7	29	26	3
9	さいたまSC	10	2	4	12	13	43	-30

※さいたまSCは「入替戦」に参加
ベストイレブンにFW小林秀征選手(アヴェントゥーラ川口)が選ばれた

第55回(2021年)関東社会人サッカー大会

11月6日～21日 群馬県内各地

1回戦	韭崎アストロスFC	2-0	ACアルマレッザ入間
	エリース東京FC	3-0	越谷FC
	Tokyo International University	1-0	TOKYO UNITED FC +Plus
	房総ローヴァーズ木更津FC	4-0	CALIENTE KUMAGAYA
準々決勝	境トリニタス	3-2	Tokyo International University

※優勝したエリース東京、準優勝のヴェルフェ矢板は「入替戦」に参加

関東サッカーリーグ入替戦

12月25日
さいたまSC 0-4 エリース東京FC
(KSL 2部 9位) (関東大会 1位)

※さいたまSCは埼玉県サッカーリーグ1部に降格

1種・大学

JR東日本カップ2021 第95回関東大学サッカーリーグ戦2部

●全日程終了

順位	チーム	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
1	東京国際大学	47	14	5	3	40	15	25

※東京国際大学は1部に昇格

2021年度第54回関東大学サッカー大会

10月30日～11月27日 関東各地

作新学院大学	0 - 1	城西大学
神奈川工科大学	0 - 4	城西大学
青山学院大学	1 - 1	城西大学
中央学院大学	0 - 2	城西大学
明治学院大学	1 - 0	城西大学

※城西大学は3位となり、2部参入戦プレーオフに出場

関東大学サッカーリーグ2部参入戦プレーオフ

12月4日 浦安市陸上競技場

立教大学	1 - 2	城西大学
------	-------	------

(2部10位)

※城西大学は11年ぶりに関東大学サッカーリーグ2部昇格が決定

2種

高円宮杯 JFA U-18 サッカープレミアリーグ2021 EAST

●全日程終了

順位	チーム	勝点平均	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
4	大宮アルディージャU18	1.38	25	8	1	9	28	26	2
10	浦和レッドダイヤモンズユース	0.66	12	18	3	3	12	18	-6

※浦和レッドダイヤモンズユースは関東1部降格

高円宮杯 JFA U-18 サッカープリンスリーグ2021 関東

●全日程終了

順位	チーム	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
5	昌平高校	21	6	3	5	22	21	1

高円宮杯JFA U-18 サッカープリンスリーグ2021 関東1部参入戦

12月18日～22日 押原公園グラウンド

1回戦	桐蔭学園	0 - 0	西武台
		(3PK 5)	
決定戦	西武台	1 - 1	関東第一
		(4PK 3)	

※西武台は、関東1部に昇格



1回戦 西武台 vs 桐蔭学園



決定戦 西武台 vs 関東第一

2種・高体連

第100回全国高校サッカー選手権大会

12月28日～1月10日 国立競技場他

1回戦 西武台 0 - 1 三重

※優勝は青森山田



1回戦 西武台 vs 三重

3種

高円宮杯JFA第33回全日本U-15サッカー選手権大会 関東大会

11月6日～14日 関東各地

●Aブロック

1回戦 プレジールSC 1 - 4 横浜F・マリノス追浜

●Bブロック

1回戦 1FC川越水上公園 1 - 2 東京ヴェルディ

GRANDE FC 1 - 6 クマガヤSC

FCクラッキス松戸 0 - 3 浦和レッズ

2回戦 クマガヤSC 2 - 2 浦和レッズ

(1延長0)

準決勝 ウイングスSC 0 - 5 クマガヤSC

代表決定戦 横浜F・マリノスJY 2 - 1 クマガヤSC

●Cブロック

1回戦 柏レイソル 1 - 0 FCアビリス

Wings U-15 2 - 1 三郷ジュニア

クラブ与野 3 - 0 エルドラードFC

2回戦 クラブ与野 1 - 1 水戸ホーリーホック

(0延長1)

●Dブロック

1回戦 FC東京U-15むさし 6 - 0 成立ゼブラ

坂戸ディプロマツ 1 - 2 ジェファ

三菱養和調布 1 - 1 大宮アルディージャ

(10PK 9)

高円宮杯JFA第33回全日本U-15サッカー選手権大会

12月11日～27日 味の素フィールド西が丘他

1回戦 FC LAVIDA 3 - 1 ガンバ大阪門真ジュニアユース

2回戦 FC LAVIDA 3 - 0 ファジアーノ岡山U-15

準々決勝 徳島ヴォルティスジュニアユース 0 - 5 FC LAVIDA

準決勝 FC LAVIDA 4 - 1 鹿島アントラーズつくばジュニアユース

決勝 FC LAVIDA 0 - 5 サガン鳥栖

※優勝はサガン鳥栖

4種

JFA第45回全日本U-12サッカー選手権大会

12月26日～29日 白波スタジアム他

●グループJ

FC西崎(沖縄県) 0 - 3 レジスタFC

ヴィッセル神戸 1 - 3 レジスタFC

フォルツァ松本 1 - 7 レジスタFC

※グループ1位でラウンド16に進出

ラウンド16 レジスタFC 2 - 0 大分トリニータ

準々決勝 レジスタFC 4 - 0 アリーバFC(宮崎県)

準決勝 レジスタFC 3 - 2 横河武蔵野FC

決勝 鹿島アントラーズ 0 - 3 レジスタFC

女子

第27回関東女子サッカーリーグ 1部

順位	チーム	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
3	三菱重工浦和レッズレディースユース	26	8	2	4	42	17	25
8	大東文化大学	5	1	2	11	8	41	-33

第27回関東女子サッカーリーグ 2部

順位	チーム	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
1	東京国際大学	31	9	4	1	33	9	24
6	尚美学園大学	14	4	2	8	23	44	-21

第35回関東大学女子サッカーリーグ1部

●全日程終了

順位	チーム	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
6	東京国際大学	30	9	3	10	22	22	0
10	大東文化大学	19	5	4	13	21	40	-19
11	武蔵丘短期大学	15	2	9	11	12	25	-13

第35回関東大学女子サッカーリーグ2部

●全日程終了

順位	チーム	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
1	十文字学園女子大学	46	15	1	2	54	12	42
7	尚美学園大学	21	6	3	9	26	30	-4

【入れ替え戦】

12月5日 SFAフットボールセンター

慶應義塾大学	0 - 1	十文字学園女子大学
(1部12位)		(2部1位)
武蔵丘短期大学	2 - 2	国際武道大学
(1部11位) (4PK5)		(2部2位)

※十文字学園女子大学は1部昇格、武蔵丘短期大学は2部降格

第30回全日本大学女子サッカー選手権大会

12月24日～1月6日 味の素フィールド西が丘他

1回戦 東京国際大学 0 - 1 仙台大学

※優勝は早稲田大学

JFA第25回全日本U-18女子サッカー選手権大会

1月4日～10日 J-GREEN堺

1回戦	1FC川越水上公園メニナ	0 - 1	アルビレックス新潟U-18
	三菱重工浦和レッズレディースユース	1 - 0	愛媛FCレディースMIKAN
2回戦	三菱重工浦和レッズレディースユース	1 - 1	マイナビ仙台レディースユース
	(5PK4)		

準決勝 三菱重工浦和レッズレディースユース 3 - 2 ノジマステラ神奈川相模原ドウェー

決勝 三菱重工浦和レッズレディースユース 1 - 2 セレッソ大阪堺レディース

※優勝はセレッソ大阪堺レディース

第30回関東高等学校女子サッカー選手権大会

11月13日～21日 東京都内各地

1回戦	花咲徳栄	0 - 2	帝京第三
	南稜	1 - 2	暁星国際

※優勝は日本航空。上位7チームは本大会へ出場

第26回関東女子ユース(U-15)サッカー選手権大会 兼

JFA第26回全日本U-15女子サッカー選手権大会関東予選会

11月3日～13日 千葉県内各地

1回戦	白岡SCL	0 - 2	1FC川越水上公園メニナU-15
2回戦	東京BARUS FC	0 - 1	ちふれASエルフェン埼玉マリU-15
	スフィータ世田谷FCユース	0 - 3	1FC川越水上公園メニナU-15
	フィオーレ武蔵野FC	0 - 1	三菱重工浦和レッズレディースジュニアユース
準々決勝	ノジマステラ神奈川相模原アヴェニール	5 - 0	ちふれASエルフェン埼玉マリU-15
	1FC川越水上公園メニナU-15	0 - 2	三菱重工浦和レッズレディースジュニアユース
準決勝	栃木SCレディース	0 - 1	三菱重工浦和レッズレディースジュニアユース
決勝	横須賀シーガルズMEG	2 - 2	三菱重工浦和レッズレディースジュニアユース
	(4PK2)		

※三菱重工浦和レッズレディースジュニアユース、1FC川越水上公園メニナU-15、ちふれASエルフェン埼玉マリU-15は本大会へ出場

JFA第26回全日本U-15女子サッカー選手権大会

12月11日～27日 味の素フィールド西が丘他

1回戦	FCコーマレディースアザレア	2 - 4	1FC川越水上公園メニナ
	ちふれASエルフェン埼玉マリU-15	1 - 3	INAC神戸テゾーロ
	三菱重工浦和レッズレディースジュニアユース	5 - 2	AICシーガル広島レディース
2回戦	ノジマステラ神奈川相模原アヴェニール	3 - 1	1FC川越水上公園メニナ
	三菱重工浦和レッズレディースジュニアユース	3 - 0	RESC GIRLS U-15
準決勝	日テレ・東京ヴェルディメニナ	1 - 1	三菱重工浦和レッズレディースジュニアユース
	(5PK3)		

※優勝は日テレ・東京ヴェルディメニナ

JFA U-15女子サッカーリーグ2021関東

●全日程終了

順位	チーム	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
3	三菱重工浦和レッズレディースジュニアユース	20	6	2	6	25	20	5

シニア

JFA 第9回全日本O-40サッカー大会

11月6日～8日 藤枝総合運動公園サッカー場他

●グループD	F.C.西武台	2 - 0	大分OB
	F.C.西武台	0 - 1	アルフト安曇野シニア
	F.C.西武台	1 - 2	羅針盤倶楽部NAGOYA

※優勝はFC船橋

2021年度JFA第22回全日本O-60サッカー大会関東地区予選会

11月28日 コーエイ前橋フットボールセンター

●第2ブロック

1回戦	千葉四十雀SC	2 - 0	埼玉シニア60
敗者戦	群馬FCレタドレス	3 - 1	埼玉シニア60

※代表は山梨シニア、千葉四十雀SC。本大会は中止

JFA第16回全日本O-70サッカー大会関東予選会

11月13日 SFAフットボールセンター

●Bブロック

1回戦	山梨シニア70	0 - 0	埼玉シニアO-70選抜
	(4PK2)		
敗者戦	墨東70	0 - 0	埼玉シニアO-70選抜
	(6PK5)		

※代表はアスレチッククラブちば、山梨シニア70。本大会は中止

フットサル

日本女子フットサルリーグ2021-2022

●全日程終了

順位	チーム	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
7	さいたまサイコロ	7	2	1	6	17	33	-16

第12回関東女子フットサルリーグ2021 Powered by PENALTY

●全日程終了

順位	チーム	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
3	Ambition	16	5	1	1	27	15	16

※影山未来選手(Ambition)がベスト5に選出された。

JFA第27回全日本U-15フットサル選手権大会関東大会

11月20日～12月5日 前橋市民体育館/茨川市総合公園体育館

●1次ラウンド・Aブロック

	ASV PESCADOLA 町田U-15	5 - 0	FC狭山ジュニアユース
	東急SレイズFC フットサルU-15	10 - 0	FC狭山ジュニアユース

※優勝はエム・イー・エス千葉 VITTORIAS FC。上位2チームは本大会に出場

JFA第12回全日本U-15女子フットサル選手権大会関東大会

11月20日～12月5日 前橋市民体育館/茨川市総合公園体育館

1回戦	白岡SCL	5 - 0	P.S.T.C.LONDRINA VALE
準決勝	東小沢FCバンビーナ	1 - 2	白岡SCL
決勝	十文字中学校	3 - 2	白岡SCL

※優勝は十文字中学校

「第4回埼玉フットボールカンファレンス 2022」開催決定

日 時	2022年3月19日(土) 14時～18時30分
会 場	熊谷文化創造館さくらめいと・太陽のホール(住所:熊谷市拾六関111-1)
第1部	2020東京オリンピック総括……………JFA技術委員会 未定 女子サッカーの現状……………JFA女子副委員長 能仲太司氏
第2部	「心理学から見るサッカーのコーチング」……日本大学理工学部教授 北村勝朗氏 就任のご挨拶……………埼玉県FAコーチ 山崎茂雄氏
参 加 料	2000円(当日集金)
リフレッシュポイント	10
定 員	400名(社会情勢を鑑み、会場からの要請により)
申込方法	JFAの「KICKOFF」から各自申し込みをお願いいたします。 A級・B級ライセンス保持者 2月7日(月)～18日(金) C級ライセンス保持者 2月24日(木)～3月10日(木)

※定員に限りがあるため、A級・B級を優先とさせていただきます。

未定個所の決定、変更がありましたら、SFA公式ウェブサイトにてその都度お知らせいたします。

インフォメーション

●JFAガールズサッカーフェスティバル2021 in SFAフットボールセンター開催

11月3日、初の試みとしてU-10の少女を対象にした「JFA ガールズサッカーフェスティバル2021 in SFA フットボールセンター」が開催されました。県内55チームから、3年生99名、4年生111名の210名が参加してくれました。運営は4種トレセンスタッフと女子委員会が連携して行い、久喜高校女子サッカー部の皆さんに協力していただきました。

「サッカーの楽しさを少しでも伝えたいという思いで開催しました。普段のチームメイトでまとまらないように配慮したゲーム形式で行う中で、この年代でも驚かされるような将来有望な選手もました。ただ逆に初心者の選手もいましたので、次回はその点も考慮し、子どもたちのたくさんの笑顔が見られるよう努めたいと思います。関係者の皆さん、ご協力いただき、ありがとうございました。引き続きよろしくお願いいたします」(4種委員会・大山武士)



●JFAユニクロサッカーキッズ in メットライフドーム、開催

12月25日、JFA ユニクロサッカーキッズ in メットライフドームが開催されました。99チーム823名の未就学児の子どもたちが集い、午前と午後に分かれてミニゲームを楽しみました。寒い中ではありましたが、ボールを追いかける子どもたちは皆、元気でした。一人でも多く、サッカーを続けてほしいものです。

スタッフの皆さん、尚美学園大学女子サッカー部の皆さん、狭山ヶ丘高校サッカー部の皆さん、お疲れさまでした。



●第1回女性審判体験会実施レポート

戸田市サッカー協会審判部長 服部 旭

戸田市サッカー協会審判部では、来年2022年度より「女子部会」を発足させ、女性審判員の創出と環境整備を推進していく活動をスタートさせます。そのスタートとして11月28日に「女性審判体験会」というイベントを企画、実施致しました。

参加対象は戸田市サッカー協会4種連盟の協力のもと女性保護者を募り、当初の想定を超える10名の参加者が集まっていただきました。また今回は近隣FAにも声をかけ、市外からも3名ご参加いただくことができました。

当日は、まずは午前中に戸田市社会人リーグの試合見学としました。この試合は、戸田市協会所属の女性審判員（3名）が担当し、審判アセッサーも女性というメンバーで担当致しました。

試合前のピッチチェックや審判打ち合わせも実際に見学してもらったところ、参加者からは「試合前にこういう事もやっているんだ」や「こんな打ち合わせをやっているんだ」などの声が挙がっていました。

試合観戦では、男性の試合ならではの激しいコンタクトやスピードのあるプレーに対して、女性審判団がしっかりと走り、かつ毅然とした対応で試合をコントロールする姿に「かっこいい」「すごい」「女性でもできるんだ」などの感想が挙がっていました。

試合後は審判アセッサーを中心に試合の振り返りをし、良かった所、課題となったところ、次の試合への改善ポイントなど確認する場面も一緒に見ていただきました。

その後、昼食を挟んで午後からは少年チームのトレーニングマッチを使って、実際にピッチの中に入って、主審として笛を吹き、副審の旗を振るという体験の時間を設けました。主審・副審1・副審2でグループとなり、女性インストラクターがそれぞれ一緒にピッチの中に入ることで、それぞれの動き方や判定、シグナルの出し方などのアドバイスを受けながら体験してもらいました。

参加者の皆さんは、最初は表情も緊張していましたが、女性インストラクターとピッチに入ると、真剣な表情とともに、時間と共に笑顔でも見られるようになってきました。体験が終わった後、皆さんからは「どこに動いていいかわからなかった」「ついていだけで精一杯」「旗はどっちに指せばいいかわからなかった」など、積極的に参加者同士で話をされている姿を見ることができました。それがまた、とてもいい表情だったことが印象に残りました。

今回参加していただいた方々は、すでに審判ライセンスを取得している方や現役のプレーヤーの方でした。そのせいか、イベント終了後に記入していただいたアンケートでは、女性が審判をすることに対して、とてもポジティブな捉え方をしている感想がほとんどでした。また、今回は女性向けの企画ということもあり、実際に参加者にアプローチするインストラクターも女性で行ったことで、積極的な質問や何気ない会話、参加者同士及びインストラクターとのコミュニケーションも良く取れていた感じを受けました。今回の経験を活かし一歩ずつ進めていければと感じました。

《参加者の声》

・楽しかった。実際に主審としてピッチの中に入ったが、どこに動いたらいいのか、どこを見ればいいのか、難しさを実感できました。でもインストラクターが側にいてくれる安心感とポイントをリアルタイムで話してくれるのでわかりやすかった。

・今までミニゲームなどでたまに審判をやったことがありますが、その場で教えてくれる人がいなかったので疑問などがもやもやしていた感じでした。今回、インストラクターが一緒にいてくれてその

場でアドバイスしてくれてとてもわかりやすかった。特にポジショニングが良いと見え方が全然違うことに気が付きました。またチャレンジしたいです。

・私はプレーヤーでもあるので今日、審判の人たちは選手のため様々な準備と気遣いをしてくれているんだと初めて気づきました。また審判技術についても今までは断片的にアドバイスをもらったりすることはあったが、今日のように一緒にやったり見たりすることで、その場でアドバイスをもらったり聞きたい事を聞くことができたので、すごくわかりやすかった。

《主催者として》

今回、女性審判体験会を開催してみても印象に残っているのは、参加者の皆さんの表情です。

緊張している表情、話に聞き入っている真剣な表情、実技体験での清々しい笑顔、様々な表情が印象的でした。その表情からは、審判について何かを得ようというポジティブな姿勢が感じ取れました。

積極的に質問をしたり、参加者同士で感想を話していたりインストラクターと参加者のコミュニケーションも自然な感じでとれていました。これは4人の女性のインストラクターが素晴らしい雰囲気を作り出してくれて、参加者に近い目線で接していたことが非常に良かったのではと思いました。

こういう女性審判員が戸田市には多くいて色々なカテゴリーで活動している事を知っていただき、私もやってみよう、もう少し続けてみよう、という気持ちが少しでも持っていたら幸いです。

4月より戸田市サッカー協会審判部女子部会を正式に発足致します。これを機に多くの女性審判員が活躍できる環境作りと、普及活動に積極的にチャレンジしていきたいと考えております。

編集
後記

コロナ禍も丸2年が経ちましたが、本年度は各種大会が様々な制約の中でも大詰めを迎え、この号では大会記録を大量に掲載できるようになりました。改めて関係の皆さまのご尽力に感謝申し上げます。埼玉県勢の活躍も次々に到着しておりますので、次号でも順次紹介をして参ります。

さて新春早々からこの新型コロナ「第6波」の感染拡大が止みません。埼玉県全域も1月21日から「まん延防止等重点措置」が発出されました。ここでは感染予防対策をもう一度徹底する必要があります。来たるシーズンを控えた大切な時期でもありますので、くれぐれも体調管理には留意されますようお願いいたします。(藤田)